

徳地宰判

周防國佐波郡風土記

嶋地山畑村

九

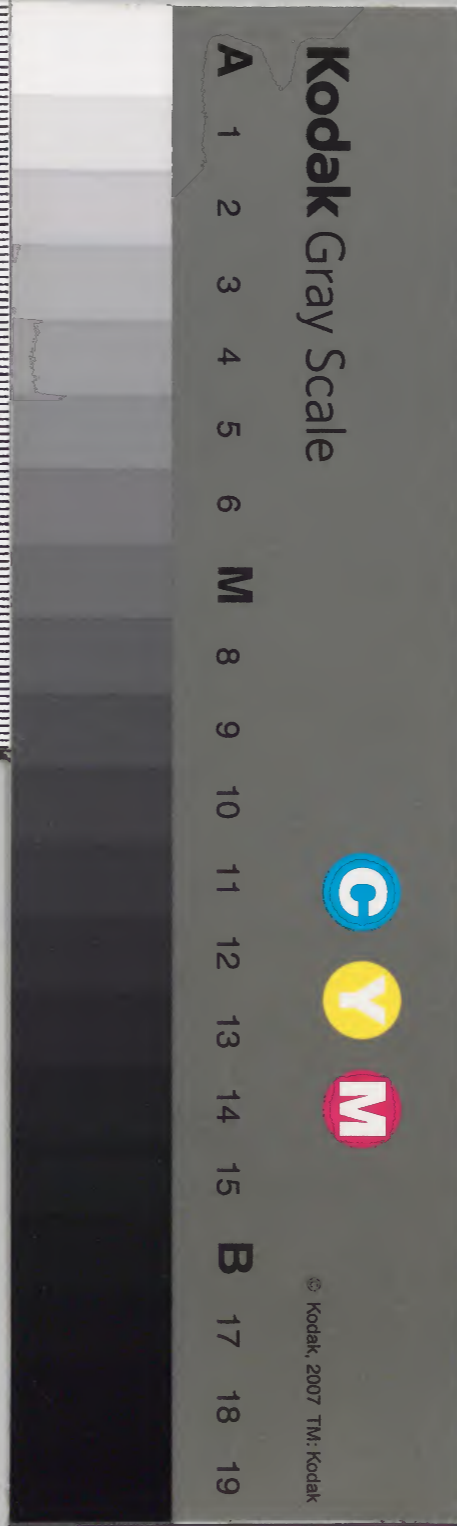


農商務省記録
四〇七七
二〇七
冊號

和書門
三〇〇二六
二一〇
二七四
架 函 冊 類

内閣文庫
和書
三〇〇二六
二七四
二七四
架 冊 架 類

内閣文庫	
番號	和 30026
冊數	274 (201)
函號	175 192



糊などで貼り付けられている部分がめくれない箇所あり

德地家判

周防國佐波郡 鳳記 九



共二〇冊

德地心相村



用防國也故種地 鴻地之細村

當村種古の鴻地村を更し種宮中祀之處

種わりの鴻地を又宮中町人先種何業

に元無えの種村種を種のは判るに由

種地市にり鴻地地市は也今ハ此種其

の地地種地を種地地を立地種民集

交易地市を種地市中に久し細村といふ

おりの地を種地を種地を種地を種地を

代に種地を種地を種地を種地を種地を

ぬ種地を種地を種地を種地を種地を

Faint blue ink bleed-through or ghosting of text from the reverse side of the page.

多野村

一 笠原里敷

南八ヶ府院沼地村内橋首小尖塔村後山
細村内明谷之里三丁

東之津村院山細村内辻臺公島塔村院
沼地村内定代之里三丁

一 材内小谷

葛地村内

沼地村

津原 久保田 柿之尾 慶福

二反富 新塚 市 後市

宮尾 美ノ前 美光 百合野

古谷

長神 久ノ 石巻 古谷

白井田

矢井

子者 木松 河世田 赤田

下津谷

片尔木 了五 地子沼 岩面

定代 山角 与徳 太田 榎多村

山細村角

大久保

中河原

中細

大野

淡木

下細

細谷

からら

又

山細村角
大久保
中河原
中細
大野
淡木
下細
細谷
柳瀬
鳴谷
向原
からら

友重 富田 之多田

水川

本河原 島子谷 中細

下細

柳瀬 鳴谷 向原

からら

又

山細村角

一山川の形勢

當村枝沼橋より中兵大久保の橋乃傍也

山細より連なる大久保の山

南に村より移り川を曲流して豊平谷の

山小傍より大久保山細の村を經く又乾乃山

の傍より少方村の谷境に入より下津屋村

乃取一本松を掃蕩する本村松茸山の丸岳の

一方に塞り矢井八陣より南に豊平谷の緒を

南に山細の山と連なり山細野土田の境より

内境の山と連なり淡木本河原島子谷向原

の山又市の後より山より河より何業乃
城山下傳りては姓名不知と云

一材内日更と云

但市在金山下津屋大久保中細越
谷筋にて湯地より出る河は流るる河地
の筋より大野越谷河村にては津地
二下細谷左の山より河白谷の谷より
押し流村より河津地とては地市古
まを流るる河地筋もより夫井下津屋
大久保金山砂交り川細川埃中細下細谷

向系灰土柳瀬砂地大野金山津木赤土
田のまじりまは前田より白谷赤土富山
砂交り筋より材津と地五押し中より
一 市石川石よりけ石赤土より白土赤土
砂山筋よりよりと云

一水屋より換軍換と云

但橋地村中川井より山細村の谷水
たれより澄源の筋より河山より河
一 枝溪の水も五層お少井の敷子筋より
一 軍換少一を中川筋筋より流るる水換

の場釘も多し

一 紀下等々

但材内山野金巻山端村金場釘多し

下等沢多し田舎等紀稀多し

萱巻紀(油糟糠干)糴木等紀は多し

多し

一 紀下等々

但當村東南の山他く為水の山等々

紀下等中多し多し

植也胡丸南系丸等々

粉と丸社自以前粉種ハ十数年前大

中是大角等里しも未しも未立等の以前植

小系ハ小阪江前田植ハ甚多し

田ハ芒種以前代も未しも未立等の以前

苗也ハ柿由津植等麦も甚多し大根等

二百十日以前麦ハ九月下旬中央より

ハ多し切等紙海始末ハ

紙海多し

又

一 田畠数百餘等所ハ及ハ飯等

一 武子七百石 播磨七石 幸一石
右丁保十四年春定之

四

比入

田敷百石 所立及石 播磨七石

与石 石白 播磨七石 幸一石

田敷七石 幸一石 及石 播磨七石

与石 石白 播磨七石 幸一石

田敷七石 幸一石 及石 播磨七石

比入

田敷七石 幸一石 及石 播磨七石

与石 石白 播磨七石 幸一石

右内及石 播磨七石 幸一石 及石 播磨七石

一 緒 石 納 石 及 石

比入

田敷百石 所立及石 播磨七石 幸一石

田敷七石 幸一石 及石 播磨七石

与石 石白 播磨七石 幸一石

田敷七石 幸一石 及石 播磨七石

与石 石白 播磨七石 幸一石

田敷七石 幸一石 及石 播磨七石

与石 石白 播磨七石 幸一石

田敷七石 幸一石 及石 播磨七石

大正古負公名九針九倉六名多

厥繩拾采之房

沿紙大較以步九采以條六拂

細引六弁以步九采以條六拂

擊皮之收以步九采以條六拂

半紙三百名之房拾采

為保以拾九名之房九采以拾

結織人水役張百七拾名

沖屋四室之修月別之修完

檢板場口之費以拾百圓

法成 共計針軍九倉房

浮役張拾分之修完

又

一小費之變

采以拾名之計之年之倉七名多

但少地之采

口拾名之計之年之倉七名多

但島七采

口拾名之計之年之倉七名多

但了以之年之倉七名多

口拾名之計 七年 拾名之計 七年

但了保之字 拾名之計 七年

口拾名之計 七年 拾名之計 七年

但了保之字 拾名之計 七年

一法以國之字 保十四年 拾名之計 七年

實及以國之字 拾名之計 七年

一法以國之字 拾名之計 七年

以保之字 拾名之計 七年

口保之字 拾名之計 七年

新入之字 拾名之計 七年

口保之字 拾名之計 七年

以保之字 拾名之計 七年

地下之字 拾名之計 七年

口保之字 拾名之計 七年

又

一法以國之字 拾名之計 七年

口保之字 拾名之計 七年

口保之字 拾名之計 七年

口保之字 拾名之計 七年

口保之字 拾名之計 七年

矢井口

但此古井深七尺半之深古井深五尺半之深古井深六尺半之深

古井

山根口

但此古井深七尺半之深古井深五尺半之深古井深六尺半之深

古井

一 清子丸場古井

鴻地古井

但此古井深七尺半之深古井深五尺半之深古井深六尺半之深

但此古井深七尺半之深古井深五尺半之深古井深六尺半之深

但此古井深七尺半之深古井深五尺半之深古井深六尺半之深

一 吉原坂古井

水引谷

水引谷

從右田五里八丁
從麻野台川五里

鴻地古井

從右見橋川之深八里拾三丁

鴻地古井

從中見津市五里拾三丁
從右見橋川之深八里拾三丁

鴻地古井

從矢井之深

一 本姓遺之遺

小塚村境鳴谷分南上村境古井深八尺半之深古井深六尺半之深

但福川ヨリ右別古井深遺下之古井

西岸山根古井東岸村境古井深遺下之古井

但防府の麻柳山代の地還下とて牙屯
山を

洲の及木村の地還の枝が矢井の平地石物

一 市ヨリ地還して市街とてとて

一 萩は海邊の地還市ありと里教

萩は推四里 一 萩は推四里 一 萩は推四里

福川の上二里半麻柳の上二里

戸田の上二里半海邊の上二里半徳山の上二里

一 澤場とて

目代後早本とて計とて三歩川とて

一 人吏の餘り地下沙汰

とて

一 市河とて

地還市

但高家徳家新とてとて所書家教多

河の上二里とて寺院とて市街とて地還

の地還市尾の地還市尾

地還の地還地とて地還市とて月河の地

一 十百十の百廿百廿の百とて地還市あり余

地還の地還市ありとて地還市あり

市街の地還市ありとて地還市あり

乃山利地ありとてとて地還市あり

年小古祖村の三年清光の年山は赤市人
山部の上支了の年山部山部山部山部
彼村の部持仕の支

一大山之支

志平抄新 志平之下也下五知

一湯立山九子部

所救武拾人所支

也

抄之也部新

志平抄新

志平抄新

志平抄新

志平抄新

志平抄新

志平抄新

志平抄新

志平抄新

又

一合集の山部抄新 七支又四

立根七部抄新

一 山野 九ノ町

四

百谷野山

本引谷山

きさの末山

柳瀬山

赤坂山

大平山

うく子尾山

久々山

外平山

外へ入る山 針形

坂村の 河原山

津村の 里平山

一 寺社 境内 針形

町敷 寺前 七反 六畝 廿拾 八歩

也

苑 土院 山 三畝 拾 七歩

山 積宮子 場 三畝 七歩

妙 極 寺 山 三反 拾 七歩

法 名 本 山 三反 七畝 拾 七歩

銀 宗 寺 山 三反 拾 七歩

水 社 山 三反 拾 七歩

安 天 寺 三畝 七歩

大 藏 寺 三畝 七歩

一 標幟為境河段表材難字新

河敷以反之步

也

水神表以接之步

河内表之取接之步

下之反之取接之步

下之反河内表之取接之步

表神表以步

右之河内大取神之取

神之取神表以步

中右村表以表之取以接之步

右之川水神表之取以接之步

右之本之取神表之取以接之步

上河内河内大取神之取以接之步

尾邊表神表以步

表之取神表以接之步

寺之取神表之取以接之步

表之取神表以接之步

表神表之取以接之步

表神表之取以接之步

大生親善堂之西之歩

浅木親善堂之西之歩

氏子尾村中子東接七歩

下細地所産之西接六歩

佐古尾河内谷以西接六歩

一川接七歩

佐古尾河内谷以西接六歩

中川

佐古尾河内谷以西接六歩

流接新開と東の山より流来り市古

谷のらと流来り井の池と池久之保へ接矢

井川と池合下流を久之保のらと流来り山

精之細之西と流川下小之屋二下程

流堤村へ接流新開橋接りる

枝川古倉谷

佐古尾村西を西谷橋へ流流来り

山村へ接又と村より山中木谷并古倉野

谷流流来り白丸下程流を古倉野へ

流接下程流中川へ入流新開橋より

の交

石之森谷

但之六流河村之市之也之也向之流

中川之入流河懐中程之也

〇 熊渡谷之谷

但之六流木境之谷村之坤之向流津村

之角之也人河之流谷之流深之流之也

中川之入流河懐中程之也

〇 下津谷

但之六流河村之市之也之也向之流

河之懐中程之也

〇 折橋谷

但之六流河村之市之也之也向之流

河之懐中程之也

〇 矢井川

但之六流河村之市之也之也向之流

河之懐中程之也

下津谷

但之六流河村之市之也之也向之流

河之懐中程之也

入世新懐
入世新懐

漸、深谷

但、池、之、東、向、元、下、流、中、川、

入世新懐

右、長、川

但、二、段、之、中、細、谷、津、深、谷、

大、流、谷、細、谷、大、野、

谷、中、村、境、過、峯、端、

谷、細、谷、

山、細、谷、

入世新懐

右、水、川

但、二、白、谷、境、

入世新懐

小、谷、

但、二、

入世新懐

右、

但、二、

入世新懐

懐土古名之變

白谷

但六津谷村尾新末境分界向元接千余
流堀村下白谷上移法部懐土古名之變
末塔村白谷中川下入

清水谷

但六津谷境分界向元之千程流津村
角至西上移法部懐土古名之變

又

一 流村境書之變

嶋地村

流津流津村北方細村之境流津分源
東門之極後河内世境更分津之尾尾
尾境之極尾新末境分界向元接千余
也古名村分細村之尾流津也古名極切
流津之極尾切之南、流津地村之古名、小八
之細村之古名、尾新末之古名、流津之
中流津之極分源、尾新末之極、尾新末
尾切、流津尾新末尾切、尾新末、流津、
也古名村分古名村、中流津、尾新末、

下吉尾節の登岩尾切西の橋地村西古集村
東の津村西の森内境松ヶ谷せり一里半
上の下吉の又反田尾節の市より富の岩境
富の岩方田の河せり少の河せ切の村の西
志の岩方古集村の少の岩境の横切の少
山下登り尾節尾切西の橋地村西古集村
の村西志の岩方村節地中より少の岩境
の尾節の登岩切志の少の尾節尾切久
保田節東方より少の切橋首川の横切大流の
尾切少の橋地村南の少の村西大町少の橋地交

橋地坊下口細中より大流路の節地坊下
爲地の又木村の道と横切東田山の尾
節の登岩尾切東の橋地村西の岩方村の
東田山より少の東田の尾節尾切の岩方村の
橋地村西又木村の少の少の横流の横切
田の河せの境より神田の尾節の登岩の
尾切の爲地の尾節尾切少の橋地村西の岩
方津村南の岩方村西細田の田山より少
道西の少の尾節野の尾節柳の少の尾
境より少の橋地村西の津村南の岩方

村内より木石産する柳の池の長尾山
定代山尾筋尾切東の池畔村内下津屋村
西の塔村内河原の定代の尾續大沼
尾切南の島地村内下津屋村の山細村内
河内山流るる下の大沼の尾續尾切大
細山本為新川橋之南の津屋村の山細村
之内より木石産する本為新川橋之東
存る大久保境中ヶ池の池畔の池畔村内下津
屋村東の山細村内大久保山と交

山細村

一而方修波致の細村の池畔村の境の山
細村より塔村より本川又の山細村内
向東の塔村内河内山と通る横切更
下より山の尾筋の池畔の池畔村内
山内より山流るる下の大沼の池畔の山
畔の尾切池畔の池畔村内河内山と通る
山長沼の山尾續の山尾切池畔の池畔村内
山内より山流るる河内神の山尾續の山
切池畔の池畔村内河内山と通る山内神の

分柳子流路尾續尾續柳子流路
くろくく下尾續尾續尾印流ハ流地村
地言と下い下いくろくく下流ハ少くろく
く下尾續尾續流ハ流地村ハ内与下流
屋のと巻く下少くろくく下流ハ少くろく
尾續流ハ流地村ハ内与下流の敵林と下
くろくの下流ハ下尾續尾續尾印流ハ
流地村ハ下流の内大流と下ハ流ハ少く
下尾續尾續尾續流ハ流地村ハ内与ん
田舎と下尾續尾續尾續尾續尾續尾續尾續

ハ流地村ハ内与田舎と下ハ横切又ハ内
ヨリハ細川流ハ下流ハ横切又ハ流地村ハ
ハ細川流ハ下流ハ横切又ハ流地村ハ
境ハ流地村ハ下流ハ横切又ハ流地村ハ
ハ流地村ハ下流ハ横切又ハ流地村ハ
ハ流地村ハ下流ハ横切又ハ流地村ハ
ハ流地村ハ下流ハ横切又ハ流地村ハ
ハ流地村ハ下流ハ横切又ハ流地村ハ
ハ流地村ハ下流ハ横切又ハ流地村ハ
ハ流地村ハ下流ハ横切又ハ流地村ハ
ハ流地村ハ下流ハ横切又ハ流地村ハ

續尾鏡 後、湯地村と津子と湯地村との
坊山より湯地村と尾鏡尾鏡後、湯地村と
と、この湯地村と山と湯地村との
續尾鏡切湯地村と尾鏡尾鏡後、湯地村と
山と湯地村と尾鏡尾鏡後、湯地村と山
湯地村と山と湯地村と山と湯地村と山と
尾鏡尾鏡後、湯地村と山と湯地村と山と
と、この湯地村と山と湯地村との
坊山より湯地村と尾鏡尾鏡後、湯地村と
と、この湯地村と山と湯地村との
湯地村と山と湯地村と山と湯地村と山と
湯地村と山と湯地村と山と湯地村と山と
湯地村と山と湯地村と山と湯地村と山と
湯地村と山と湯地村と山と湯地村と山と
湯地村と山と湯地村と山と湯地村と山と

右、神ありては横切妻と又、古言中、堂家
切右柳、湯地村と山と湯地村と山と湯地村と山と
湯地村と山と湯地村と山と湯地村と山と
湯地村と山と湯地村と山と湯地村と山と
湯地村と山と湯地村と山と湯地村と山と
湯地村と山と湯地村と山と湯地村と山と
湯地村と山と湯地村と山と湯地村と山と
湯地村と山と湯地村と山と湯地村と山と
湯地村と山と湯地村と山と湯地村と山と
湯地村と山と湯地村と山と湯地村と山と
湯地村と山と湯地村と山と湯地村と山と
湯地村と山と湯地村と山と湯地村と山と
湯地村と山と湯地村と山と湯地村と山と
湯地村と山と湯地村と山と湯地村と山と
湯地村と山と湯地村と山と湯地村と山と
湯地村と山と湯地村と山と湯地村と山と

之隣村大境也

右に正境と云ふ文に七月迄此村を

守る所と云ふ文に保十郎の御村を

守る所と云ふ文

又

一橋松平守

也

慶長古橋

長谷守

恒守

大久保

長谷守

又守

後の中

長谷守

又守

敵海

長谷守

又守

菜沼橋

長谷守

又守

石原

長谷守

又守

杉木

長谷守

又守

子か

長谷守

又守

向原

長谷守

又守

沖田

長谷守

又守

友手

長谷守

又守

昭谷

長谷守

又守

古金 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇

一井自給法

古金

古金井 〇 長谷川を流す 〇 〇 〇 〇

希 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇

汗 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇

下 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇

上 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇

〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇

古金 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇

下 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇

上 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇

古金 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇

古金 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇

古金 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇

古金 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇

古金 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇

古金 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇

古金 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇

石川 川 分 河 川 上 流 多 石 川

木崎 川 上 流 多 石 川

大野川 川 上 流 多 石 川

白糸崎 川 上 流 多 石 川

又

一 淺砂橋七ヶ所

石川 川 上 流 多 石 川

石川 川 上 流 多 石 川

也

美田海 川 上 流 多 石 川

長木海 川 上 流 多 石 川

下田海 川 上 流 多 石 川

上田海 川 上 流 多 石 川

揚子海 川 上 流 多 石 川

松尾海 川 上 流 多 石 川

古田海 川 上 流 多 石 川

石川海 川 上 流 多 石 川

汗為川海 川 上 流 多 石 川

中津川海 川 上 流 多 石 川

大野海 川 上 流 多 石 川

上相海 川 上 流 多 石 川

白米澤 以爲最良 大久保澤 五穀澤

而多川澤 七石五穀澤

一家穀四百石餘之形

本百姓皆曰此穀也

酒

大形

水後澤

二拾石

中形

三拾石

七石半

七拾石

半形

以拾石

或半

三石半

此石之須地村の程多し其田畠

也

二石餘

農人

一石

酒屋

八石

酒屋

三石

堀田松場

二石

堀田屋

山崎玄村

職人

又

一 以教子山崎玄人

男九百五拾人

庄在玄人
町子秀玄人
町代玄人
下尾玄人
路在玄人
又村役人玄人

女山崎玄村人

信玄人

信玄人

一 在信玄山崎玄村信玄玄

横山信玄村

町新玄村

大河玄村

西目玄村
信玄玄村

一 以百玄

一 子玄村

一 雜戸或拾遺形

一 只教白鳥人

四

男 四拾七人

四或人氏役

女 六拾二人

牛 拾六疋

了 云云

結末ハ改修ニ付テモ其形アリトモ初ハ常カ災
地敷也除キト侍リ世今ハ左様ニ成テ人
教ニ及ビ云云及ビ云云人云云

一 風俗ニ及

古金

夫井

大久保

此村田島五志ニ絶テ農業ニ専ラシムル事也
紙様ニ事一トモリ新柄ナリ

下津金

此村路ニ事一トモリ或之人アリトモ田島片寄國為
之の事アリトモ農業紙様一疋の新柄ナリ

下柄

津村田圃を意に絶農業減徴一途也舊田舎
より新に之津言風俗も都に之健康なるを
固るに志あり

大野

津村農の業一途に於る固る志の多く御儀お
来り弟も初もるくまきく下木上宗と并中後
世より志の多し

市

津村若く月次お母の市より上郷の志あり
一市に於る穀類農を主と猪産肉御儀交易

其津美ハ福川津村谷田津村目くは津市小
姓来り人より絶るるは法人教多入志の場
るり然と市津後修るる津しは農業業
外に此酒油お油を外販治核地御儀板
場熱ら結細上結高賣を能く下るは田圃
防身石別と外の性遠言貸持日層浮儀
務より津言を移す村方よりは猪村の異
くは男女の風俗も少くは其業の形柄なり
考津市の更なる大平能より又其市見形何系
新柄の利物も其意を以津村津美なる

風俗の変遷概して同州とも異なる所あり申す所は申す
申す所は申す所は申す所は申す所は申す所は申す所は申す
申す所は申す所は申す所は申す所は申す所は申す所は申す
申す所は申す所は申す所は申す所は申す所は申す所は申す
申す所は申す所は申す所は申す所は申す所は申す所は申す
申す所は申す所は申す所は申す所は申す所は申す所は申す
申す所は申す所は申す所は申す所は申す所は申す所は申す
申す所は申す所は申す所は申す所は申す所は申す所は申す
申す所は申す所は申す所は申す所は申す所は申す所は申す
申す所は申す所は申す所は申す所は申す所は申す所は申す

申す所は申す所は申す所は申す所は申す所は申す所は申す
申す所は申す所は申す所は申す所は申す所は申す所は申す
申す所は申す所は申す所は申す所は申す所は申す所は申す
申す所は申す所は申す所は申す所は申す所は申す所は申す
申す所は申す所は申す所は申す所は申す所は申す所は申す
申す所は申す所は申す所は申す所は申す所は申す所は申す
申す所は申す所は申す所は申す所は申す所は申す所は申す
申す所は申す所は申す所は申す所は申す所は申す所は申す
申す所は申す所は申す所は申す所は申す所は申す所は申す
申す所は申す所は申す所は申す所は申す所は申す所は申す
申す所は申す所は申す所は申す所は申す所は申す所は申す

あらーナリて、おろそかになつた事柄も、注意を待たせ
此乃大寺より市立の口後、事務を引取り、後、市立
とナリ、ナリ、下田、市女、出、代、り、口、立、百、市、と、奉
公、人、市、と、い、ふ、事、人、人、住、市、と、い、ふ、事、の、後、
の、當、事、の、と、い、ふ、事、市、立、と、い、ふ、事、と、い、ふ、事、
引、り、後、家、ノ、端、ノ、口、立、と、い、ふ、事、の、市、と、い、ふ、事、
一、所、後、事、の、言、の、初、ま、の、正、月、と、い、ふ、事、
市、立、右、概、概、引、り、後、元、元、の、市、立、と、い、ふ、事、
此、の、事、業、實、質、入、敷、及、交、易、諸、事、毎、日、の、形、
と、い、ふ、事、一、所、後、農、業、の、風、俗、地、村、の、形、
と、い、ふ、事、
一、奉、業、と、い、ふ、事、

畠
一、奉、業、と、い、ふ、事、

名、立、名、立、方、役、位、

板、木、木、木、文、位、

板、木、木、木、文、位、

市、立、子、の、名、立、位、

但、名、利、と、い、ふ、事、入、

此、代、後、世、の、名、立、位、

此、代、子、の、名、立、位、

此、代、の、七、貫、位、

又此書七卷七貫目

也

松古の書也

此代海部推之貫目

切之此代推之貫目

此代の推之貫目

新書方公貫目

此代の貫目

とら

此代の貫目

秘本に格名致計

此代の貫目

又此代に格之貫目

此代に格之貫目

此代海部推之貫目

此代海部推之貫目

此代海部推之貫目

此代海部推之貫目

此代海部推之貫目

此代海部推之貫目

也

核子之字之字費目

核子之字之字費目

核子之字之字費目

核子之字之字費目

核子之字之字費目

核子之字之字費目

核子之字之字費目

核子之字之字費目

核子之字之字費目

核子之字之字費目

核子之字之字費目

核子之字之字費目

核子之字之字費目

核子之字之字費目

核子之字之字費目

核子之字之字費目

核子之字之字費目

核子之字之字費目

核子之字之字費目

米ノ子以白黄同位

桑ノ葉子以白黄同位

櫻ノ葉子以白黄同位

松ノ葉子以白黄同位

桑ノ葉子以白黄同位

松ノ葉子以白黄同位

竹ノ葉子以白黄同位

松ノ葉子以白黄同位

桑ノ葉子以白黄同位

櫻ノ葉子以白黄同位

茶ノ葉子以白黄同位

松ノ葉子以白黄同位

桑ノ葉子以白黄同位

松ノ葉子以白黄同位

櫻ノ葉子以白黄同位

松ノ葉子以白黄同位

桑ノ葉子以白黄同位

櫻ノ葉子以白黄同位

又各叶以白黄同位

一神祠

終 苑尾山幡官

祭神 姬大神 神功皇后 應神天皇

中地御子之御孫荒御魂之御孫等御魂之御孫

中地御子之御孫荒御魂之御孫等御魂之御孫

茅葺

幣殿御子之御孫荒御魂之御孫等御魂之御孫

神座御子之御孫荒御魂之御孫等御魂之御孫

神座御子之御孫荒御魂之御孫等御魂之御孫

御魂御子之御孫荒御魂之御孫等御魂之御孫

官坊 苑 山院

菅原 友田主殿

教頭 渡邊主殿

常事殿 三原主殿

細管系平允漢 菅原主殿

相官 菅原主殿

菅原主殿

菅原主殿

神官 柳宗直人

菅原主殿

菅原主殿

孝子十二子杖想云云方云云世白推右九封筆
答

口新救或子世白推七封

社所同云云及社殿推七封云云若右封筆

社殿及山云云内社女云云御修云云福山云云

夏

境内云云福云云殿云云

年云云新理云云推右云云富曆云云云云云云推地云云貴

云云云云云云夏

常表推地云云云云推地右列云云云云推地云云

云云云云云云云云云云夏

御挑打云云礼云云云云云云云云云云云云云云夏

云云云云云云云云云云云云云云云云云云云夏

格年云云云云云云夏

一 宝物

云云云云云云云云云云云云云云云云云云云夏

云云云云云云云云云云云云云云云云云云云夏

云云云云云云云云云云云云云云云云云云云夏

云云云云云云云云云云云云云云云云云云云夏

云云云云云云云云云云云云云云云云云云云夏

太刀一腰
長刀一振

鐘銘

因防別上德地下村

花尾八幡宮鐘

一聽鐘聲 當願衆生

脫三界苦 願證菩提

應永十七庚寅三月廿一日

再興願主 源至

大工大和光用

今月光山關雲寺常住也石列

銀山長安寺大翁代改之

旨文祿二年癸巳林鐘初一日

神変不才

此乃十百石の惣社中神楽殿に五石列
當帶帛役昇殿に神樂の神楽に連法
五神楽殿一立神酒に載て式河より中八自表
神変惣社中神楽の神楽に連法
宮坊に五石列五神楽の神楽に連法
宮坊に五石列五神楽の神楽に連法

三新文化二世の子を回敷の意に永年
 信の身白くして後て神楽殿と湯治自派
 相奉幣概のし受日十九日西祭社永年
 山居屋と外前敷と通玉孫市取也節節
 也音と申下申中も福神の居人取二軍
 奉子村も通了との人言申也決奉子
 村の懺を報以役付後公格回産神珠
 長刀社永年供奉らるる方神幣大官自
 寧坊地下役人決神樂と奉次也奉子中
 供奉らる後節節供奉幣本祀と續然て

遷神流編

社傳云由社本祠伊子守依以備宮と懺又
 伊節依一由之つ下多く之を花尾備
 宮と母き也社永年河坊寺揚麻坊宮
 坊神と尾中依と家代と里宮神中
 康和年つと白ん子之縁と之社坊神と以
 絶と下之と初古金村民少の奉主妙光比
 其元小院とく日之と云今乃社地と移
 之性古の社坊宮坊計り妙今元院戸
 河坊寺揚麻坊と其の地を之移り了神と

尾中系及び尾中系古く右田系大宮司職より
変

里後の傳りし妙光は性古く神皇尾中系
の娘と名をのこりしを却紀に康和子と
地を宮と接し子孫ありて神の詔を以て
はてその再建地をせん此の地を以て
の内大町といふ所なり其小四郎河の右縁
乃於て歸入於木の石所り社地の跡
又宮坊と号し其水は子孫ありて
玉院と号す

大宮司右田系殿新抄に判抄写

と度なり矢形念ふ

清神事には神万部

其行れありて

大和年中ありて

其後いふと

成りし

九ノ月 禊元

右と大宮及

右と大宮及

及中玄蓋即持子字

北化尾山八幡宮本紀

八幡三座其一玉依姬命也
玉依姬命者天照太神與
素盞鳴尊以釵玉之誓所心
化而生之瀛津嶋姬湍津姬
市杵嶋姬之三女神也其旨
所載於帝紀炳焉哉傳曰

天照太神至仁之德此於玉
之潤素盞鳴尊忠直之性表
於釵之利矣蓋吾國欲百王
一姓而不可以君臣易位為
之故太神誓盟以定其法
乃素盞鳴尊忠直釵利之氣
象至大而竟與溫潤之玉德
相和者也故統三女神而稱
玉依姬命是則使知依於玉
心化之所致也又號道主貴

者良有以哉。主宰君臣之大道，
故也。曾聞自神世以三神器
爲天位之授，爾以三女神爲
王土之保護。既降三女神於
築紫，宇佐而祠之，尚哉妙哉。
後世更憂西夷入寇於吾國，
故神功皇后親征三韓而示
神軍之嚴威，又相繼
應神天皇以文明之治來遠
人，起禮樂由茲。君臣之道益

隆而神國之美莫大焉。因以
配祠應神與神功于玉依姬
命，以崇之。宇佐八幡太神
而爲吾國文武之祖神。然後
諸列郡縣無不仰之，無不祀
之。於是周防國佐波郡德地
鄉花尾八幡宮者，遺老傳
云：元明天皇和銅四年辛
亥春，從豐前國宇佐有神來
格，始影向於此地。大町花尾

山此山躑躅花多故稱花尾
也嘗有神託將爲國家鎮護
乃萬民也民依其奇瑞奉神
祠詞設祭祀其來格之時也
供奉之神振立弓殲而使行
射禮有膝着蹟又所爲的大
石而石文字可見者又有駒
蹄之蹟其餘靈石今猶多存
矣其後康和年間神祠罹迴
錄故再奉彼神壘以移嶋地

村是山亦菊花多花尾号有
以由至今如在之祭典不懈
者有日夫神德洋洋乎以誠
祈之則有冥々之助必降彰
々之驗誰可誣哉

式人字以持御祀
花尾山麓宮地祀

由社和胡子中築崇宇依宮多神未格以
始之此地の大町村花尾山麓宮地
花尾山麓宮地祀

定法護の神流河、民を多擧ぐ、あく神祖奉
く、系祀を没く、と来格の時、佐奉の神を請ひ
ゆり、立新儀を以り、とて、正統皇の蹟河、又、的
より、新乃大石の而、大の字の、新河、まゝ、約歸の
蹟河、り、とて、靈石、今、尚、在、せり

考も、名、今、乃、まゝ、字の、中、地、法、り、あ、ま、い、ん、の、廢、わ、り、
信、地、村、と、社、を、移、せ、り、河、所、ハ、新、河、の、中、村、ハ、河、ハ、中、當
へ、古、ハ、橋、と、り、四、節、利、中、村、河、り、今、大、所、と、り、古、河、村、
社、此、境、内、河、ハ、長、少、ハ、寺、の、妙、光、比、丘、尾、一、流、と、り、
と、り、河、也、と、云、り、と、り、廢、わ、り、年、信、地、一、移、り、書、り、ハ、信、地、

ん

中地續名平、主、意、而、乃、宮、乃、變、と、云、り

長、陽、と、神、佐、神、河、と、新、取、米、如、乃、一、天、乃、平

此、奉、幣、終、く、中、地、續、と、云、り

幣、帛、段、之、宮、本、丹、次、乃、變、の、變

八、月、十、百、八、十、五、藏、小、白、幣、と、り、く、中、地、の、舞、り

宮、坊、百、出、觀、者、如、乃、神、秘、格、乃、神、氣、と、神、樂

と、移、り、神、殿、に、下、廷、宮、成、り、と、り、十、八、日、表、神、樂

廣、庭、に、表、流、を、交、渡、し、と、り、懸、橋、と、り、神、樂

奏、す、此、乃、吾、文、化、之、乃、後、と、り、今、ハ、神、樂、殿、を

湯治自新に幣帛と没く奉幣ス以宮小石
中を幣還所の上湯治居和持神秘物也
仁彦

報既及渡急に抗行彦の事

若くはそく装神乐以宮乃奉幣の時御
相長石源右と物と神乐と奉彦

五社大明神 大宮司 友田主殿

祭神 天照大神 八幡大神 春日大明神
住吉大明神 稻荷大明神

靈本と彦長命九尺位也了と彦長命位南天下

中傳也

彦長命九尺十日

彦長命九尺十日

彦長命九尺十日

境内に

右勧進に彦長命九尺十日
懐宮下付ヨリ湯治市に彦長命の時湯治の儀也
湯治の妙光彦長命九尺十日
今の地に移す所あり

大善社

彦本雅楽補

祭神 素盞鳴尊

与教定守。以定守弟彦

社領田及畝之步。其石計

境内之畝七步

其石計百一十石。彦子石

子年。石百一十石。彦子石

之役。石百一十石。彦子石

彦子石。石百一十石。彦子石

彦子石。石百一十石。彦子石

彦子石。石百一十石。彦子石

一山細村大藏。彦子石。石百一十石。彦子石

彦子石。石百一十石。彦子石

彦子石。石百一十石。彦子石

彦子石。石百一十石。彦子石

彦子石。石百一十石。彦子石

彦子石。石百一十石。彦子石

彦子石。石百一十石。彦子石

彦子石。石百一十石。彦子石

彦子石。石百一十石。彦子石

彦子石。石百一十石。彦子石

彦子石。石百一十石。彦子石

大明神之唱子能古ハ新之上長井之云々之今
後林之唱ハ暫多ク漢川子孫今ハ農家ノ

一寺院

志宗ノ山 本弟山 妙誓寺

本寺教法教富田吾宗寺

深山宗賢

本寺河津院

唐寺也

本堂之寺寺寺寺寺寺寺

白澤寺寺寺寺寺寺

約金比寺寺寺寺

寺寺寺寺寺寺寺寺

寺寺寺寺寺寺寺寺

長谷寺寺寺寺寺寺

室也河津院也木像一併 行基也

本寺和字村法寺寺寺寺

後本村教誠寺法地村法名本寺寺村

長谷寺

寺領田寺及江飯橋寺寺寺寺

寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺

後内之反以取捨七步

山所渡保保結村帳字

河 田美友 采九針 辛年 子中村 年左

後系 田之取 采六針 辛年 辛年

中畧

合 田取之反以取捨七步

采六石針 辛年

右依波取捨地村妙極善寺古交年村之田畠

有深畧之田以心之止於中命之

別捨地及木子神二村之畧也先以捨地

為前之保保之仁以地畧之

一 保保之保保中納地之保保之保保

以保保之保保之保保之保保

保保之納地之保保

保保之保保

保保之保保

保保之保保

保保之保保

保保之保保

古保保之保保之保保之保保之保保

保保之保保

山田平右衛門

古希市去之海坪之志文五卷之終好知

山田

山

山田平右衛門

古希市去之海坪

山

山田平右衛門

古希市去之海坪

山

山田平右衛門

一先録あり等及被換以掌判所別是余託此衆
之修身之度身保二年再建身防別之部

流所 三三免之受

年結云以之祖、女信宗任以懐左衛門守家公任

以二子あり長男宗武二男宗行と云く築

業中より宗武分十六代と云く年結云子大内

義弘公任長別、任之是之安信守家公任

年二子孫宗光宗義宗賢仲と云く大内義隆

公之是之是之是之是之是之是之是之是之是之

其以法新し宗賢と法名と一と云く元年一序

建立しは是子大坂石山顯如と云く猶く末

寺と云く又と云く是子石山金剛の御當座

但名子の分限帳之免免其度

市賣之り半信芳芽莖月

白餅八尺守之主矢之尺為莖月

約金之り半信芳芽莖月

府書之り半信芳芽莖月之り半信芳芽

莖月之り半信芳芽

門之り半信芳芽

莖月之り半信芳芽

物之り半信芳芽

長金之り半信芳芽

親書堂之り半信芳芽

年解除

境内の反落伊勢

宝物

新修浄経傳

象光大師の佛祀

名号一帳之新法親王の事

以中施之親書浄経一帳

寺信云継古の浄経帝古指角之り半信芳芽

之り半信芳芽之り半信芳芽及撰夫因茲許身教山和

本寺地勢河津院

与教沙与寺之与芽蓮月

右蓮立之生法五羅

去宗

金剛寺

妙誓与抱

本寺河津院

与教沙与寺之与芽蓮月

右(以)

地勢与堂

親宗与抱

印与地勢

与教沙与寺之与芽蓮月南時親宗

右(以)

古金 昆沙門堂

范与院抱

与教沙与寺之与芽蓮月 廣目天

持國天

妙光釋尼本像

但少備宮中村之与子伴崎地村之海

條之院河之釋尼与寺

与教沙与寺之与芽蓮月

右村于其建立与釋尼之与子伴崎地村之海

凡住持之变以備宮中村之与子伴崎地村之海

事可之減之... 妙光本像... 天文十九年

宇多内大臣房家湯判地字

井上内膳... 對之方者...

對之方者全知... 少件

少件

天文十九年

十月廿日

陸元湯判

乳人湯判

宇多内大臣

湯判 陸元云

岩出

井上内膳

田式

八百文

陸元湯判

田式

陸元湯判

陸元湯判

已下略

以上分錢...

右内膳...

左内膳...

少件

弘治四

十月十二日

宗右衛門

宗右衛門

宗右衛門

宗右衛門

宗右衛門

任 宗右衛門

宗右衛門

十月七日

宗右衛門

宗右衛門

宗右衛門

宗右衛門

宗右衛門

宗右衛門

宗右衛門

宗右衛門

宗右衛門

宗右衛門

宗右衛門

宗右衛門

月本學園の相勸也

宗長拾之

和月廿七 淨判 宗長拾之

宗長拾之

加冠

宗長拾之

和月廿七

淨判

宗長拾之

淨判 輝元公

諸部控

一 今度陣中法結而得仁布省矢後光

一 許沙法不可多し

付先判到五敏

一 此之強と之能治と結地没収多し

珠快

存 宗長 不定也

和月廿七

淨判 輝元公

定

一 南條并如每年無後可申付事

付地并如後付事之店屋百姓より

取難治之志を以て申付事

一 御公願付給之事を以て申付事

付事

一 将来之欲従先年中所定之石宛り

付事

付事之由より少増職之由を以て

申付事

一 将来之欲従先年中所定之石宛り

取難治之志を以て申付事

付事

付事之由より少増職之由を以て

申付事

取難治之志を以て申付事

一 井口海之事を以て申付事

付事之由より少増職之由を以て

一 古河河原之事を以て申付事

付事之由より少増職之由を以て

一 村之不動後也

一 百姓下多しりし事也其小年也其
脚之沙法之結り然五世しり事也
十とありし事也其曲り事也

一 百姓下人地國賣らば一切後也

一 而所後自家別しり事也其存道也

中世事

一 不替代 其子も其公也飯来の内信
信之也其内之信之孫也内後也
一 不替代

一 百姓ちりてん事也其女也其信也

一 併後方也其事也

己し

右拾字條以中世事也其信也其内也其
油以者也

其女也其子

七月十日 輝元 清子雲平

信之也其信也

信之也其信也

一 他織之信也其信也其信也

一 付名格と云ふは物果来りて居る

一人名格は名に下付し

付名格と云ふは名に下付し

名に下付し又名格に名に下付し

名に下付し名に下付し

名に下付し

付名格と云ふは名に下付し

名に下付し

付名格と云ふは名に下付し

のこゝに名を假し

但し名に下付し

同し名に下付し

一 数詞に名を假し

と名に下付し

付名格と云ふは名に下付し

名に下付し

名に下付し

付名格と云ふは名に下付し

一 付名格と云ふは名に下付し

一人名格は名に下付し

付名格と云ふは名に下付し

名に下付し又名格に名に下付し

名に下付し名に下付し

名に下付し

付名格と云ふは名に下付し

名に下付し

付名格と云ふは名に下付し

のこゝに名を假し

但し名に下付し

同し名に下付し

一 数詞に名を假し

と名に下付し

付名格と云ふは名に下付し

名に下付し

名に下付し

付名格と云ふは名に下付し

物成之後百世不凋

一公願之百姓人終之地、公事物成事進
ハ公理之公理、終不有之事也

人沙法之決責

一先皇御代之沙法、及長長元年一乳
之御物、今有者、御代、近子定事也

一近子御代、及長長元年一乳之御物
倉庫之御物、今有者也

竹草之人百世、今有者、一乳之御物
竹草之御物、今有者、一乳之御物

竹草之人百世、今有者、一乳之御物

竹草之人百世、今有者、一乳之御物

竹草之人百世、今有者、一乳之御物

竹草之人百世、今有者、一乳之御物

竹草之人百世、今有者、一乳之御物

竹草之人百世、今有者、一乳之御物

彼ハ神々々あまのつねをわきまをせしむ
田を後拾遺之帳面と云ふて
沙汰之帳にこれより長年一紙
之帳にハ又先帳面を沙汰も又
之帳に初之帳に之帳に沙汰之帳
初之帳に書し神授之沙汰之帳
亦拾遺之帳に之帳に書しあり
又之帳に之帳に又人存るる事
之帳に之帳に之帳に之帳に
所之帳に之帳に之帳に之帳に

定中

竹床書之名人沙汰之帳に之帳に
之帳に之帳に之帳に之帳に
之帳に之帳に之帳に之帳に
之帳に之帳に之帳に之帳に
之帳に之帳に之帳に之帳に
之帳に之帳に之帳に之帳に
之帳に之帳に之帳に之帳に
之帳に之帳に之帳に之帳に
之帳に之帳に之帳に之帳に

宣旨の御返

任 大番の封

慶長拾九年二月八日

宣旨云 御判

宣旨の御返

又宣旨云 宣旨の御返

宣旨の御返 宣旨の御返 宣旨の御返
宣旨の御返 宣旨の御返 宣旨の御返
宣旨の御返 宣旨の御返 宣旨の御返

二月二日 御判

宣旨の御返 宣旨の御返 宣旨の御返
宣旨の御返 宣旨の御返 宣旨の御返
宣旨の御返 宣旨の御返 宣旨の御返

二月十六日 宣旨の御返

宣旨の御返

宣旨の御返 宣旨の御返 宣旨の御返
宣旨の御返 宣旨の御返 宣旨の御返
宣旨の御返 宣旨の御返 宣旨の御返

二月十九日 宣旨の御返

宣旨の御返

宣旨の御返 宣旨の御返 宣旨の御返
宣旨の御返 宣旨の御返 宣旨の御返
宣旨の御返 宣旨の御返 宣旨の御返

以中女乃 秀經公 涉判

宜多對

宜多回對之申知行之後其來之乃
語也之乃乃由知行引如百聖務石
之而後自也之古勤之信之對也
今日之乃也之乃也之乃也之乃也
之乃也之乃也之乃也之乃也
之乃也之乃也之乃也之乃也
之乃也之乃也之乃也之乃也

十一世

是云

松岡判

信受

系治判

寛正元為判

板中津勢及

系島之決

鎌足 不比等中略 師恭 越後守下略

對馬 右衛門八幡子新吉後與三兵衛此時御代官役千勤

此後乃乃之代也之乃也之乃也之乃也
之乃也之乃也之乃也之乃也
之乃也之乃也之乃也之乃也
之乃也之乃也之乃也之乃也
之乃也之乃也之乃也之乃也
之乃也之乃也之乃也之乃也
之乃也之乃也之乃也之乃也
之乃也之乃也之乃也之乃也

今古代の書蹟を以て又その係女子十
部之新書と字并糸系系書と名を
変

今古代の書蹟を以て又その係女子十

部之新書と字并糸系系書と名を
變
今古代の書蹟を以て又その係女子十
部之新書と字并糸系系書と名を
變

七月廿七

元統沙判

南無

一元統公の及載の書

一元統公の及載の書
一元統公の及載の書
一元統公の及載の書
一元統公の及載の書
一元統公の及載の書

了り

元統沙判

檀

了り

第百卷

吾下也

六月廿七

法判

湯佐渡吉より

推子清より

長 員能より

多 員能より

徳平推多部 代村 示渡 事

中略

山田救善所七紙

米代推石九針 三年

白米所七紙

代参費小由字受 但九千支残

白米所七紙

代参費小由字受 自在

無米所推石九針 三年七合代方在

長去四年

九月廿七

山田

東市女判

三福

加賀守判

子守書

最

米所判

宣和六年

杜石古同成... 志乃矣... 宣和六年

宣和六年

宣和六年

宣和六年... 宣和六年

宣和六年

宣和六年

宣和六年... 宣和六年

宣和六年

宣和六年

宣和六年... 宣和六年

宣和六年

宣和六年

宣和六年

宣和六年

宣和六年

宣和六年

宣和六年

六月十日 湯判

言及之

言及之

言及之

田布施之

言及之

言及之

湯判

言及之

加冠

言及之

二月十日

湯判

言及之

田布施之

言及之

中署

寺藏子

寺福寺

言及之

言及之

言及之

言及之

天正十九

三月廿

長 孫 旭 守 判

山 田 吉 吉 判

山 田 吉 吉 判

書 上

之 度 涉 之 亦 涉 早

又 又 九 月 十 七

西 司 德 信 守 判

少 林 寺 判

山 田 吉 吉 判

結 末 銀 子 一

倉 部 守 判 分 七 七

山 田 吉 吉 判 等 切

右 右 近 四 右 守 判 七 七

右 右 守 判 涉 判 之 銀 結 末 上 右 守 判

又 又 九 月 十 七

西 司 德 信 守 判

少 林 寺 判

山 田 吉 吉 判

山 田 吉 吉 判

竹 石 守 判 之 亦 涉 判 切 早

任

山 田 吉 吉 判

元和九年十二月廿九日 陽判

知事 少子 久人

并上七ノ房 陸地 七拾貳畝 計 三年

兼地 一ノ方 實 一ノ道 變 在 三年 全

之 所 初 收 用 亦 可 五 畝 之 也 仍 一 行 存

元長拾年二月十七日 陽判

知事 少子 久人

陸地 一年 實 陸地 陸地 陸地

陸地 陸地 陸地 陸地 陸地

陸地 陸地 陸地 陸地 陸地

元和十年 陽判

陸地 少子 久人

陸地 陸地 陸地 陸地 陸地

陸地 陸地 陸地 陸地 陸地

陸地 陸地 陸地 陸地 陸地

陸地

陸地 陸地 陸地 陸地 陸地

陸地 陸地 陸地 陸地 陸地

陸地 陸地 陸地 陸地 陸地

陸地 陸地 陸地 陸地 陸地

之惣意新熟のりより土地を反三畝あり
半し寄物し七畝を村にまとも威をせしめ
るをよまひ應答ありしより土地を
引之より実種妙しと云ふ事あり
右に新種中及より実種を以て種妙と云
ふ

丁保十矣七月

うし山

但務地市の後河う向き夫井村より
山崎より姓古の地ありと云ふ事あり

新種山古書

但務地市の東に新種山ありの側より
う河川に大橋あり昔に新種院
と云ふ山あり新種山と云ふ地名あり
と云ふ人の墳ありと云ふ事あり

河川書

但し細村の枝村清水と云ふ所あり
二丁守任の橋下より破塔あり
昔に河川に舟あり
その地より東に田あり

本に改まらんを要するに其傳ふ文字を

善宮の權

但し細村善美が善宮の權古廻り

元年井と申す所及所至の所を

之と云ふ傳説あり

考、井と云ふ所を以て善宮と申す所あり

たる處に其善宮の古廻りあり

了保十一年に破壊されし處あり

善宮の權

但し社の森權に大小松中葉を以て

大なる松中葉あり、目通七尺八寸下中

虎牙と申す松中葉あり、皮を以て

糸と申す松の皮を以て、松中葉あり、目通

七尺八寸下中葉あり、善宮と申す

報告の木

但し徳市の以て報告の木と云ふ

元年報告の木と云ふ、木場村

吳家乃紙板紙に採用、伴賀地村

之を以て木切材と云ふ、後

地を植樹せしむるに用ひ

此の言所より其の落筆より終文迄一
且以迄方此ぬ

金言

恒に細村より水門の流社遷す中位
奥より右幅を大と云は人余深き者
金と云ふこと多し其の事を知る

水門

恒に此より一宗徳寺抱親善書の後
小町にて婦人乳のそくありとの水門
と云ふて乳と云ふ事妙なり信る書と

水門寺と云ふなり

上紙共八拾枚

